

パコパンパ遺跡における墓（通称「ヘビ・ジャガー神官の墓」）の発見

◆概 略：国立民族学博物館・ペルー国立サン・マルコス大学合同調査団は、2015年9月5日、ペルー北高地パコパンパ遺跡の北側基壇において深さ約1メートルの墓を発見した。被葬者は2名おり、いずれも紀元前700年頃の重要人物と考えられる。墓内部には、ジャガーの顔とヘビの胴体をもつ黒色象形鏡形（あぶみがた）壺1点が北側被葬者の腹部付近に副葬されていたほか、金製の飾り玉からなる首飾りが南側被葬者の頸部付近から出土した。南側被葬者の頭部、頸部付近からは、赤色顔料らしきものが若干検出されたが、朱（硫化水銀）である可能性が高い。2名の被葬者の性別は現段階では断定できていない。これは、同遺跡で同調査団が2009年に発見した「パコパンパの貴婦人」墓に次ぐ重要な墓である。

◆調査チーム：国立民族学博物館・ペルー国立サン・マルコス大学合同調査団

◆調査リーダー：関雄二・国立民族学博物館民族社会研究部教授

(e-mail: sekito@idc.minpaku.ac.jp)

関行動予定

10月4日 パコパンパ遺跡滞在

10月5日～8日 リマ滞在

10月11日 帰国

◆調査責任者：フアン・パブロ・ビジャヌエバ ペルー国立サン・マルコス大学調査員

◆資金：日本学術振興会 科学研究費補助金（基盤S）「権力の生成と変容過程から見たアンデス文明史の再構築」

◆遺跡の位置：ペルー北高地カハマルカ州チョタ郡 海拔2500メートル

◆遺跡の年代：パコパンパI期 紀元前1200年～紀元前800年

パコパンパII期 紀元前800年～紀元前500年

◆編 年：I期もII期もアンデス考古学上、形成期と呼ばれる時代に属する。紀元前2500年～西暦紀元前後がこれにあたる。神殿における祭祀活動を中心に社会統合が図られていた時代。ほぼ同時代の遺跡としては、世界遺産に指定されているチャビン・デ・ワンタル遺跡や、かつて日本調査団（団長：大貫良夫東大名誉教授）が発掘し、金製品を伴う墓を複数発見したクントウル・ワシ遺跡がある。

◆遺跡の特徴：クントウル・ワシ遺跡とならぶ北部高地最大の形成期神殿。緩やかに連なる自然の尾根を利用して三段のテラスが築かれ、最上段に遺構が集中する。地表面で観察できるのは、パコパンパII期の遺構がほとんど。II期の遺構としては、30m×30mの窪んだ広場とそれを囲むように三方に配置された低い基壇がある。アンデス考古学では、U字形の配置という。なお広場の四辺の中央には、階段が設けられている。窪んだ広場に

向かって右側（北側）の基壇は北基壇と呼ばれ、この上には、方形のくぼんだパティオや小型の基壇が築かれ、何度も改築されていたことがわかっている。広場の正面に位置する中央基壇からは「パコパンパの貴婦人」の墓が 2009 年に発見されている。

◆墓と副葬品の位置

北基壇は半地下式方形広場の北側に位置する基壇で、墓は北基壇上に設けられた窪んだ半地下式パティオの西側で確認された。

墓壙は円形を呈し、直径は 55cm で、深さは約 1メートルの地下式墓である。下部に行くにしたがって墓室が広くなり、85cm ほどの直径になる。洋ナシ状の構造を持つ。

これまで北基壇では、浅い土壙墓が多数検出されてきたが、今回の墓は、「貴婦人の墓」（深さ 2 m）に次ぐ深さを持つ。さらに墓の上部に大型の石が積まれていた点、その下に安山岩の板石 3 枚ほどが斜めにもぐりこんでいた点、安山岩の下に埋葬があった点は、「貴婦人の墓」の構造と同じである。北側には、頭を西に向けた被葬者が安置され、南側には東に頭を向けた被葬者が置かれていた、両被葬者の頭の位置は極めて近い。墓はパコパンパ II 期に相当する。

副葬品として、北側被葬者の腹部付近に鍔形壺（高さ 20cm）が、被葬者と向き合うように置かれていた。壺の胴部は、全体としてへびの形状をしているが、頭部はジャガーのようなネコ科動物の特徴を示す。また胴部には刻線で方形に縁取られた文様が見える。方形の縁取り内は斜線（クロスハッチ）で埋め尽くされている。保存状態は良好で、出来栄もすばらしい。逸品である。

金製の飾り玉は、南側被葬者の頸部付近から複数出土しているもので、首飾りであった可能性がきわめて高い。玉の直径は 1.5cm、重さ 3g ほどで、現在までに 13 個確認している。多くの飾り玉は、北側被葬者の骨の下に隠れていると考えられ、総数は不明である。各飾り玉は、連続した 3 つの円を湾曲させたものを 4 つ（4 面）組み合わせて球状に仕立て上げる複雑な構造を持つ。へびの姿を抽象化したのかもしれない。さらに金蟬づけの痕跡も認められ、金属製作技術の高さを感じさせる。なおこの飾り玉とほぼ同じ構造の金製品は、クントゥル・ワシ遺跡から出土している。両遺跡のリーダー間で直接的な交流があったことがうかがえる。

赤色顔料は、南側被葬者の頭部から頸部に集中している。また赤色顔料近くには緑色顔料の塊、未同定鉱物が検出された（全体写真左）

◆被葬者の情報

性別、身長など自然人類学的観察は、未実施。頭蓋変形についても不明である。赤色顔料が検出されたが、朱である可能性は高い。朱の場合、当該遺跡ではこれまで社会的地位が高い人物の墓だけに限られることがわかっている。

二体とも東西方向に埋葬されていた。横臥屈葬であると思われる。

◆意義

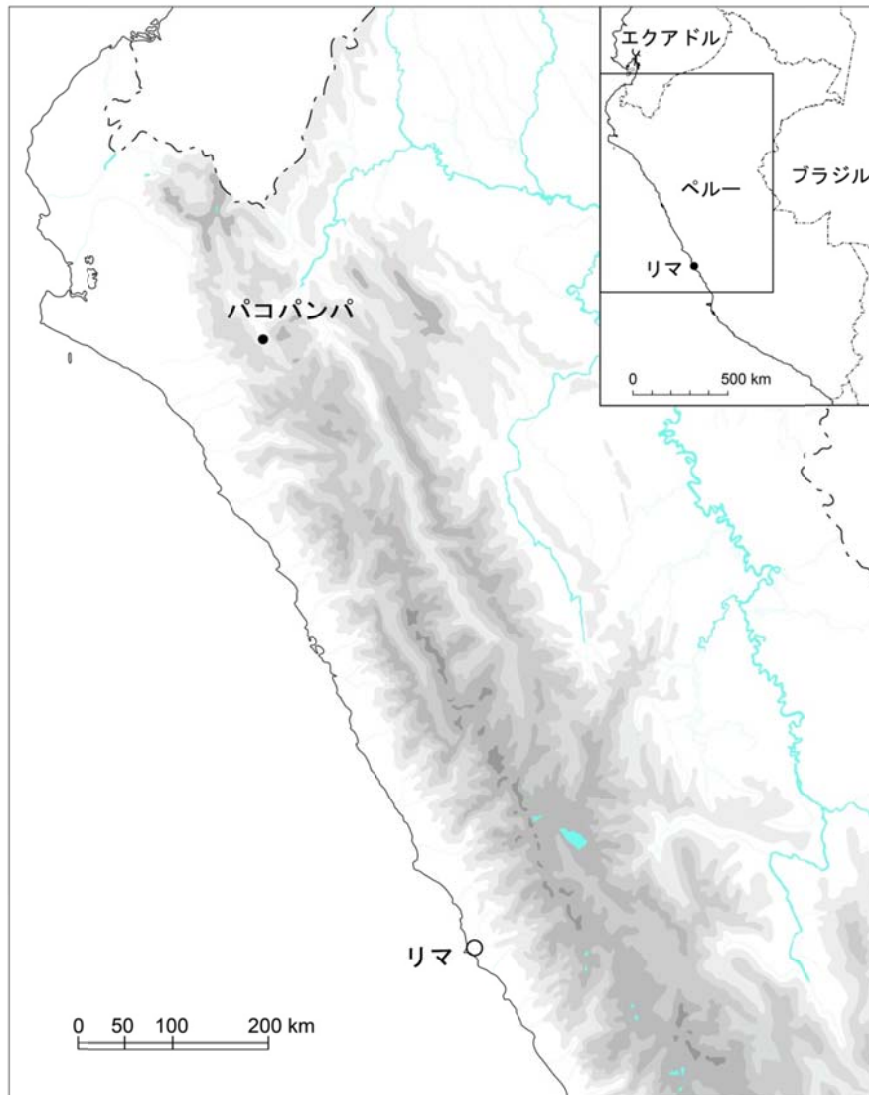
アンデス文明初期の社会は、一般に、国家や王国が存在する前の比較的平等的な社会と考えられているが、これまで日本調査団が手がけたクントゥル・ワシ遺跡の結果などを考慮すると、形成期の後半には、神殿で執り行う儀礼など宗教面をつかさどる集団（指導者）が次第に権力を掌握していったと考えられている。パコパンパ遺跡でも、例外ではなく、II 期に入るとこの傾向が顕著になると考えられてきた。2009 年において発見された「パコパンパの貴婦人」墓もその証拠の一つである。しかしながら、「パコパンパの貴婦人」墓は、II 期における神殿建設の途上において設けられた埋葬であり、その設置は神聖な空間に宗教的な力を埋め込む儀礼的行為と解釈された。すなわち神殿建設後の活動におけるリーダーとその権力の存在については、証拠が不十分な状態にあった。今回の墓の発見は、神殿建設後、この空間を利用した人々や社会の間で、社会的地位の差異が存在したことを示すものである。しかも今回の墓は、「貴婦人の墓」を意識して設けた可能性が高く、むしろそのつながり（血縁であるかどうかは不明）を強調することで地位を確保しようとした人物であったことがうかがわれる。一方で、「貴婦人の墓」は、鳥の羽の図像表現が認められた（金製耳飾り）のに対して、今回の墓はヘビやネコ科動物の表象が主となっている点で異なる。

さらに社会的地位の高い人物の墓によく認められる朱のほか、緑色鉱物（孔雀石か珪孔雀石）ほか、鉱物が添えられているのは、パコパンパ遺跡で銅製品や金製品の生産が活発であったという最近の調査団の見解と一致している。とくに実験考古学により、孔雀石や珪孔雀石を用いた銅精錬が可能であることは証明されているので、被葬者は、金属生産に関わった人物である可能性もある。

なお金製品は、クントゥル・ワシ遺跡、「パコパンパの貴婦人」墓とならび、南北アメリカ大陸最古級の金製品であることが予想される（最古の金の証拠としては、ごく小さな薄板が海岸の遺跡で見つかり、前 1000 年を超えるが完成品となるとクントゥル・ワシやパコパンパは最古級）。

学術的発掘によりこうした墓が発見される例は稀であり、日本が調査を開始して 50 年以上にわたって実施してきた地道な研究の成果といってもよい。ちなみに、関は今年 8 月にペルー文化省より文化功労賞を授与されている。

以上
文責 関雄二



ペルー、パコパンパ遺跡における墓（通称「ヘビ・ジャガー神官の墓」）の発見 広報用画像リスト



(1) 蛇ジャガー象形鏡形壺



(2) 蛇ジャガー神官の墓 土器の左上に金製首飾りが見える



(3) 金製首飾り 籠細工のように金製の帯が球状につながっている



(4) 金製首飾りの玉

これらの広報画像はデータにて提供可能です。

ご希望の画像があれば広報用画像利用申込用紙にてお申し込みください。

ペルー、パコパンパ遺跡における墓（通称「ヘビ・ジャガー神官の墓」）の発見

広報用画像利用申込用紙

〔メールでお申し込みの場合〕 koho@idc.minpaku.ac.jp

〔FAXでお申し込みの場合〕 FAX 番号: 06-6875-0401

【ご希望の画像番号】

--

【貴社・貴機関についてお知らせください。】

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
所在地 〒	
電話番号	E-mail
ご掲載・放映の予定日が決まっている場合	年 月 日

【広報に関するお願い】

- 本館の基本情報等の確認のため、掲載記事、番組内容等の原稿を、FAXまたはメールにて、下記連絡先までお送りいただきますようお願いいたします。
- 写真使用に関するお願い、注意事項
 - ・クレジットには全て「パコパンパ考古学調査団」と記載ください。
 - ・写真（画像）のトリミングや文字乗せはご遠慮ください。
 - ・作品写真の使用目的は、本件の紹介のみとさせていただきます。
- お手数ですが、掲載紙・誌または録画テープを2部お送りください。

【広報に関するお問い合わせ】

国立民族学博物館 総務課 広報係
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
TEL: 06-6876-2151 (代表) 06-6878-8560 (直通)
FAX: 06-6875-0401 MAIL: koho@idc.minpaku.ac.jp



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立民族学博物館
National Museum of Ethnology